

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	神崎市立千代田中部小学校									
1 前年度 評価結果の概要	・学校目標の達成に向けて、全教職員が、校務分掌上の成果指標を明確に見定めた上で、組織的・協働的に業務に取り組むことができおり、全ての取組でA評価だった。 ・前年度からの課題であった「睡眠時間の確保」については、肯定的回答をした児童が85％で、目標の80％を達成することができた。 ・時間外勤務時間の削減については、「時間外勤務時間の上限45時間を守ることに努めている」という質問に対し、「よくあてはまる…4」と答えた職員が中間評価の時より18％増えた。 ・昨年度から好評であり、継続してきた賞賛活動については、児童の自己肯定感・自己有用感の育成の効果が徐々に高まってきており、今後も、継続して取り組んでいく。 ・県学習状況調査の結果等を見ると、語彙力・表現力の育成の点が全体的に十分ではないこと、基礎的・基本的な知識技能の習得が十分でない学年が一部あった。									
2 学校教育目標	「賢く 優しく 逞しく生きる」そして共に生きる									
3 本年度の重点目標	1 全職員で全児童を見守る組織作り 2 勤務時間の縮減に繋がる業務の見直し・適正化、組織体制の工夫 3 学力向上（校内研究の充実／基礎的・基本的な知識技能の定着／語彙力・表現力の育成／家庭学習の充実） 4 ユニバーサルデザイン教育の推進									
4 重点取組内容・成果指標	中間評価					5 最終評価				
(1)共通評価項目										
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	○学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80％以上	A	・前期のマイプランの成果指標について全職員で振り返りを行い、共有化を図った。 ・学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80％以上達成。後期の目標に沿って今後も実践につなげていく。	A	・マイプランの中間評価の振り返りや取組を一覧にしたり、学習状況調査結果を受けての後期の重点目標・取組の研修を行ったりして共有化を図った。振り返りは3月末に行う予定で	A	・指導の成果で、ほとんどの学年で県や全国の平均正答率を上回っていてよかった。		
	○知識・技能の定着・語彙力・表現力の育成	○国語・算数の単元評価テストにおいて、知識・技能の60％以上達成を80％以上 ○本の目標貸出冊数を達成した児童		・スキルタイムや効果的な家庭学習で反復練習をさせ、計算力や語彙力の定着を図る。 ・お勤めの本読破の推奨や多読賞選出等		・4～6年の全教科で、県の正答率と同等か上回っていた。1～3年の全教科で、目標値に対する評価は同程度か上回っていた。国語・算数の単元評価テストにおいて、知識・技能の60％以上達成を80％以上達成できた。				
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて、肯定的な回答をした児童80％以上 ○年間を通して、ボランティア活動(募金・草取り・ペットボトルキャップ回収など)へ参加したと答えた児童が85％以上。	A	・縦割り遊びを今年度は月に2回に増やして実施し、異学年との交流を深めている。 ・道徳の学習が好きと答えた児童は、90％である。今後は授業で感じたことや考えたことを生活の中に生かし、気持ちのよい挨拶や言葉遣いができる児童を育てていきたい。 ・ボランティア活動を行っている児童は、86％。特に夏の運動場の草取りをしていた児童が日に日に増え、活動の輪が広がっている。	A	道徳に関するアンケートにおいて、約90％の児童が肯定的な回答をしている。 ・縦割り活動(遊び・掃除)を行ったことで、異学年との交流が深まった。 ・授業参観で道徳の授業を各学級1回以上行い、保護者にも心の教育の啓発を行った。 ・学校内で朝掃除や草取りのボランティアに進んで取り組む児童が多かった。また、ボランティアパスポートが、地域の清掃活動への参加や、ペットボトルキャップ集めへの意欲付けになった。アンケートによると、進んでボランティア活動を行っているという児童は80％以上であった。	A	・気持ちのよい挨拶ができる児童が多い。地域の人とのつながりを大切にして、これからも挨拶をしてほしい。地域としても朝の見守りを続けていく。		
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等について、組織的対応ができていると回答した教師80％以上		・心のアンケートを毎月実施する。 ・いじめの認知・認知に対する対応マニュアルの周知を図る。 ・いじめの対応についての研修会を年一回以上行う。		・心のアンケートを毎月実施し、支援を要する児童には話を聞くとともに、保護者との連携を図った。 ・夏期休業中に、「いじめ問題の対応」について佐賀県作成の講義動画を視聴したり、事例による演習を行ったりして、いじめの教職員一		・心のアンケートは1年を通じて、毎月実施することができた。アンケートをもとに聞き取り等を行い、いじめの早期発見に学校として取り組むことができた。また、問題事案については、職員間の共通理解を図り、関係児童について複数の職員で見守るような体制をとること	A	・子供たちの様子をしっかりと見ていじめの早期発見に努めてほしい。
	◎自己肯定感・自己有用感の育成	○自己肯定感・自己有用感を尋ねるアンケートで、肯定的な回答をした児童80％以上		・縦割り掃除や縦割り遊びなどの異学年交流や児童会活動を通して、出番と役割を与え承認・称賛を行う。 ・各クラスで、互いのよさを認め合う場を設定する。		・縦割り活動や児童会活動で異学年交流を多く行い、6年児童のリーダーとしての資質の向上がうかがえた。 ・帰りの会や道徳・学活の時間に、各クラスで互いのよさ発表を行って自己有用感を育んでいる。 ・1学期のアンケートでは肯定的な回答をした児童、85％達成。		・各学級で、安全な登下校についての指導を行ったことで、大きな事故は起きていない。来年も継続して指導していく。 ・月に一度登校班長会を行い、登下校の様子を聞き取り指導を行ってきた。下校時には全校児童を集め安全についての呼びかけを行っている。 ・月に一度行っている「ヘルメット調査」では、着用率が9割を超えている。今後は100％になるよう声掛けを行っている。		・各学級で、安全な登下校についての指導を行ったことで、大きな事故は起きていない。来年も継続して指導していく。 ・月に一度登校班長会を行い、登下校の様子を聞き取り指導を行ってきた。下校時には全校児童を集め安全についての呼びかけを行ったことで安全への意識を高めることができた。 ・月に一度行っている「ヘルメット調査」では、着用率が9割を超えている。100％になるよう
●健康・体づくり	●児童の交通事故を0(ゼロ)にする。 ○安全に気を付けて登下校できたかを尋ねるアンケートで、肯定的な回答をした児童80％以上 ○ヘルメット着用率100％を目指す。	●児童の交通事故を0(ゼロ)にする。 ○安全に気を付けて登下校できたかを尋ねるアンケートで、肯定的な回答をした児童80％以上 ○ヘルメット着用率100％を目指す	A	・学級活動で、児童に安全な登下校について考えさせる授業を行う。 ・登校班での話し合いを月1回行い、安全に登下校する意識を持たせる。	A	・各学級で、安全な登下校についての指導を行ったことで、大きな事故は起きていない。来年も継続して指導していく。 ・月に一度登校班長会を行い、登下校の様子を聞き取り指導を行ってきた。下校時には全校児童を集め安全についての呼びかけを行っている。 ・月に一度行っている「ヘルメット調査」では、着用率が9割を超えている。今後は100％になるよう	A	・遊具が古くなってきている。児童の安全を守るために遊具の安全点検、改修は確実に行ってほしい。 ・放課後、道路で遊んでいる子供がいる。(中高生も含めて)安全な場所で安全な遊び方をするように指導をしてほしい。		
	○自らの生活習慣を見直し、修正できる能力の育成	○睡眠時間の確保について尋ねるアンケートで、肯定的な回答をした80％以上 ○朝食喫食率について尋ねるアンケートで肯定的な回答をした90％以上。		長期休業前に朝食や睡眠時間の大切さについて指導する。保護者には、個人面談や学級懇談会等で生活リズムを整えるよう、呼びかける。		・食育・健康に関する意識調査において、健康であるためには食事・睡眠が大切と回答した児童の割合は、それぞれ93％・90％であり、児童の生活習慣に関する意識が定着してきている。今後も児童への指導を継続し、おたよりや学級懇談会等でも家庭への啓発を行う。		・睡眠時間の確保について尋ねるアンケートで、肯定的な回答をした児童87％。保護者も同じ87％だった。朝食喫食率について尋ねるアンケートで肯定的な回答をした児童が90％。保護者は97％であった。児童は睡眠時間の確保ができていない児童が増えているようだった。睡眠時間の確保が、体や心の成長に結びついているなど、睡眠の大切さについての自覚が十分でない児童がある。今後、保護者指導等で意識を高めようとする。朝食喫食率について、今後も食育推進の取組から組織的な指導・啓発活動をおこなっていく。	A	・食育・睡眠の重要性を家庭と共有し、意識が高まっているので実践につながった。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●業務委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	B	・パソコンによる業務管理の徹底 ・定時退勤日の設定 ・職員室の整理・整頓 ・文書管理(データ・紙媒体)の効率化	B	・職員室の環境整備を行い、効率よく業務に取り組めるようにした。Teamsを使って職員会議を行うことにより、ペーパーレス化を実現し、準備の時間等が削減できた。 ・他校の取組を参考に、定時退勤日と家庭の日を設定しているが、毎月3～4人(3割)程度、45時間以上の時間外勤務がある。是正するために効率化、平準化を校務分掌は3部会ごとに振り分けられており、部長を中心に、協働的に取り組んでいる。学校教育目標の達成に向けて、円滑に進んでおり、学校評価アンケートで、自らの校務分掌において、学校目標達成のための働きができたと回答した教師は、88％だった。	B	・業務効率化を目指した取組を行った結果、月45時間以内の時間外勤務に努めた職員は1回目の学校評価アンケートでは73％であったが、2回目のアンケートではわずかながら78％に増えた。来年度は組織としての取組を強化し、職員が心身ともに健康に児童と向き合えるように管理職として		B
	○3部会制の導入による学校運営への参画	○自らの校務分掌において、学校目標達成のための働きができたと回答した教師80％以上		・自己申告書の自己目標と学校評価で担当した校務分掌上の目標を連動させ、日常の業務を遂行する。		A		A	A	
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○ユニバーサルデザインに基づく教育環境整備	○ユニバーサルデザインの視点を取り入れた教室環境整備 ○授業のUD化の推進	○UDの視点を取り入れた教室環境整備について尋ねるアンケートで、肯定的に回答した教師80％以上。 ○UDの視点を取り入れた授業作りについての意識が高まったかを尋ねるアンケートで肯定的に回答した教師80％以上。	A	・ユニバーサルデザイン教育についての校内研修会を年に2回行う。 ・特別支援教育についての校内研修会を年1回以上行い、配慮を必要とする児童の特性等について理解を深める。	A	・1学期に全職員にむけて教育のUDに関する研修会を行った。また、一部職員に向けて環境のUDに関する研修会を行いUDに関する理解を深め、学校全体で実践を行っているところである。 ・特別支援教育についての校内研修会を12月までに2回実施をした。配慮を要する児童の特性及び対応についての理解を深める事ができた。	A	・UDの研修後、全職員で教室環境のUDについて取り組むことができた。また、授業の中にもUDの視点を取り入れ取り組むことができており、アンケートの結果からも意識が上がっていることがわかる。 ・特別支援教育の研修会を年3回行い、全職員の専門性を向上する機会を設定することができた。	A	・今後も子供たちが学習しやすい環境作りをお願いしたい。
○タブレットを活用した学習活動の充実	○各教科でタブレットを積極的に使用する	○タブレット使用のアンケートで週3時間程度使用したと答えた割合が80％以上。		○ICT推進リーダーがタブレットを活用した授業を紹介する。 ○実践事例を紹介する。		A		A		A
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育										
5 総合評価・次年度への展望	・学校目標達成に向けて職員が校務分掌においてそれぞれの役割を果たすと同時に、連携、協力しながら学校運営に参画し、児童の教育にあたることができおり、ほぼすべての項目でA評価であった。 ・業務の効率化を図る取り組みにより改善した部分もあるが、時間外勤務に努めたと回答した職員は約80％であり、時間外勤務削減についての関心は個人差がある。組織として勤務体制の工夫や業務の見直し、デジタル化、共有化等をさらに進めながら、時間外勤務を減らしていきたい。 ・学力調査において、すべての学年の正答率が県の正答率や全国の目標値と同等か上回ることができた。しかしながら、思考・判断・表現の観点ではまだ課題が残る。引き続き、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善や知識・技能の定着を図るための取り組みを続けていく必要がある。 ・学習環境整備や授業づくりにUDの視点を取り入れたことは学力向上にもつながっている。今後もいろいろな学習活動にUDの視点を取り入れていきたい。									